

暮らし向きは1年半ぶりに悪化し、先行きも悪化の見通し

「預貯金、投資」志向高く、節約意識も幅広い

text by しがぎん経済文化センター(産業・市場調査部)

【調査概要】
 ●調査名:「物価と消費に関するアンケート」
 ●調査時期:2016年6月14日(火)~16日(木)
 ●調査対象:滋賀県内の滋賀銀行本支店にご来店の女性
 ●有効回答数:703人

2016年6月、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に「夏季・物価と消費に関するアンケート」を実施した。半年に1度、一般消費者視点で暮らし向きや物価、消費行動を調査するもので、今回は特別項目として、「消費増税の再延期」についてもたずねた。

暮らし向きDI…1年半ぶりに悪化 世帯収入DI…2期連続で悪化

現在(2016年6月)の「暮らし向きDI」(「良くなった」「やや良くなった」と回答した割合から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した割合を引いた値)は-16.6となり、前回(15年12月:-11.9)から-4.7ポイントと、1年半ぶりに悪化に転じた(図1)。半年後については、「やや悪くなる」「悪くなる」とも増加し、全体では現在から5.8ポイント低下の-22.4と、さらに大きく悪化の見通しである。

現在の「世帯収入DI」(「増えた」「やや増えた」と回答した割合から「減った」「やや減った」と回答した割合を引いた値)は-11.2で、前回(15年12月:-10.1)から1.1ポイント低下し、2期連続で悪化した。半年後の「世帯収入DI」は-15.0で、現在(-11.2)から3.8ポイント低下し、さらに悪化の見通しである。

物価DI…大きく低下し、3年ぶりに+70を下回る

現在の「物価DI」(「かなり上がった」「やや上がった」と回答した割合から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した割合を引いた値)は+67.6となった。前回(15年12月:+74.3)から-6.7ポイントと大きく低下し、丸3年ぶりに+70を下回った。「かなり上がった」の割合が大きく低下しており、物価上昇への意識はあるものの、和らぎつつある。半年後の「物価DI」は+63.1で、現在(+67.6)から-4.5ポイントとさらに低下の見通しである。

強い「預貯金、投資」志向。節約意識は幅広く

今後半年間の世帯の支出について、支出を「増やしたいもの」「減らしたいもの」をたずねた(複数回答)。「増やしたいもの」で

「預貯金、投資」が61.5%と飛び抜けて高く、6割を超えた(図2)。暮らし向きや世帯収入に対する厳しい意識を反映して、貯蓄志向の強さがうかがえる。次いで「子どもや孫の教育費」(33.9%)、「旅行、レジャー」(28.7%)、「趣味、教養、自己啓発費(習い事など)」(25.1%)が続いた。

一方「減らしたいもの」では「光熱・水道費」(54.8%)が最も多くなり、次いで「外食」(53.4%)、「食料品(日々の食費)」(51.0%)で5割を、「通信費」(42.0%)、「衣類、ファッション」(41.2%)でも4割を超えた。日常の生活費から衣服や外食といった非日常的な商品・サービスまで、節約意識は幅広い項目にわたっている。

消費増税の再延期、「支持する」合計は5割

今回の特別項目として、2017年4月に予定されていた消費増税率10%への引き上げが、19年10月に先送り(再延期)となったことと消費に関する意識についてたずねた。

消費増税の再延期を支持するかどうかについては、「支持する」(18.6%)と「どちらかという支持する」(33.1%)を合わせた「支持する」の合計が51.7%と、全体の5割を超えた。「支持しない」(2.7%)と「どちらかという支持しない」(9.5%)を合わせた「支持しない」は12.2%であった。一方、「どちらでもない」(30.4%)が3割を占め、「支持する・支持しない」で割り切れない心理を反映しているものと思われる。

増税再延期を「支持する」理由は「家計への負担を抑えられるから」が8割

前問の回答に対する理由をたずねたところ、消費増税の再延期を「支持する(どちらかという支持する、を含む)」と回答した人は、「家計への負担を抑えられるから」(82.8%)が圧倒的に多

く8割を超えた(図3)。一方、「支持しない(どちらかという支持しない、を含む)」と回答した人は、「社会保障の充実が期待できず、将来に不安を感じるから」(58.8%)が最も多く、6割近くとなった。

増税再延期でも家計の支出は「変わらない」が7割

消費増税の再延期で今後の家計消費が変化するかをたずねたところ、「変わらない」との回答が70.6%と7割を占めた。また、「支出を減らす」(20.3%)との回答も2割を占めた一方で、「支出を増やす」はわずか3.3%にとどまった。支出の変化はほとんどなく、当面の増税がなくなったにも関わらず、節約志向を強める消費者も一定程度存在する。

家計の支出が「変わらない」理由は、「いずれ増税があることに変わりはないから」

前問の回答に対する理由をたずねたところ、7割を占めた「変わらない」との回答では、「いずれ増税があることに変わりはないから」(58.9%)が最も多く、約6割となった(図4)。「支出を減らす」と回答した人は、「節約を強めたいから」(53.6%)が最も多く、「将来への不安が増したから」(37.7%)も4割近くに達した。増税の再延期により、財布のヒモが緩む気配は薄い。「支出を増やす」と回答した人は、「消費に前向きな気持ちになったから」(36.4%)との理由が多くなったが、「いずれ増税があることに変わりはないから」(40.9%)も同程度を占めた。

調査結果の詳細は当社ホームページの「滋賀ビジネスレポート」に掲載。
<http://www.keibun.co.jp/economy/business-report/>

図1 暮らし向きDIの推移

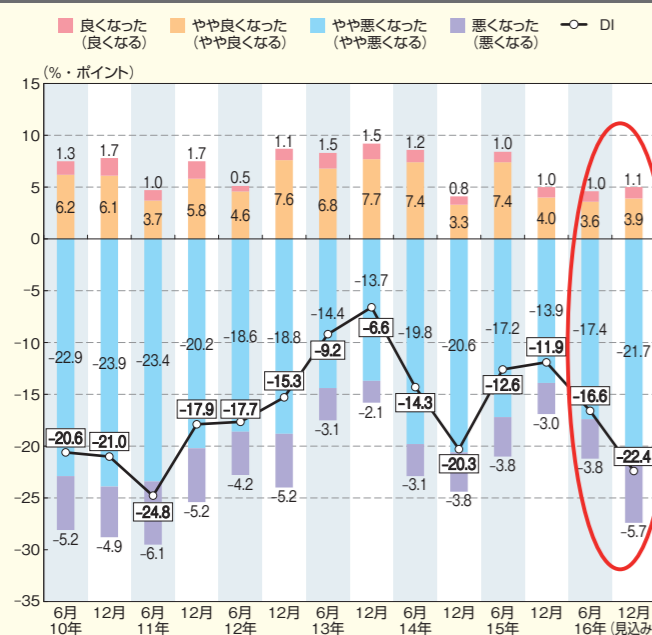


図2 今後半年間で世帯の支出を「増やしたいもの」「減らしたいもの」(複数回答)

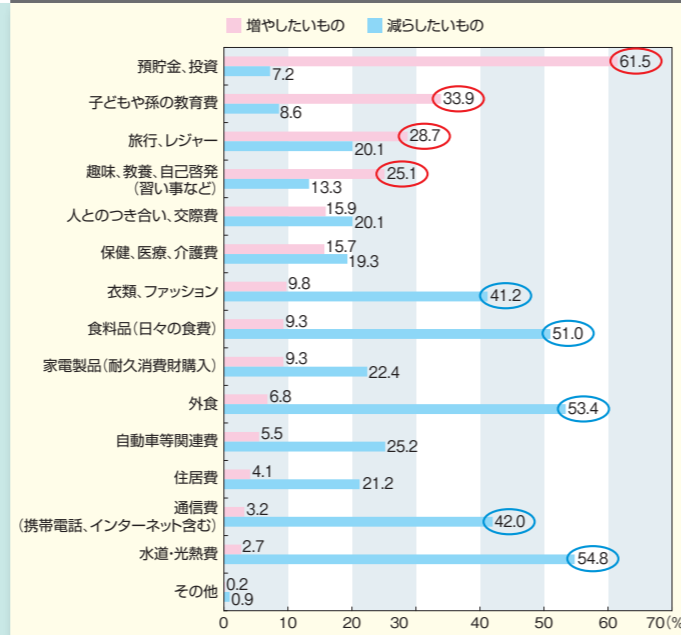


図3 消費増税の再延期を「支持する」「支持しない」の理由(複数回答)

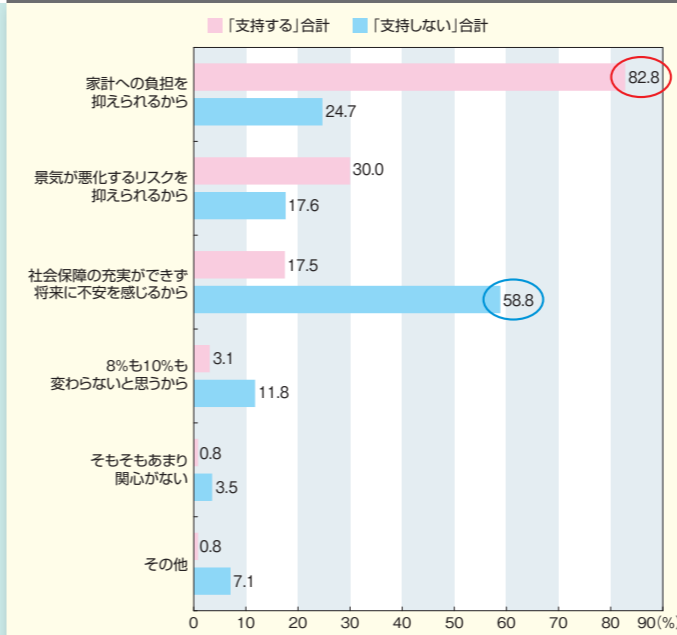


図4 消費増税の再延期で家計支出を「増やす」「減らす」等の理由(複数回答)

